



八戸ブックセンター  
HACHINOHE BOOK CENTER



縄文ZINE  
Books

八戸ブックセンターギャラリー展

主催・八戸ブックセンター  
協力・三菱製紙八戸工場・是川縄文館

紙から本ができるまで／土から土器ができるまで展



土から土器  
紙から本

2022, 5/21<sup>sat</sup> ~ 8/21<sup>SUN</sup>



# 紙から土器ができるまで

## 土から土器ができるまで展

八戸ブックセンターのギャラリー展2022年度の「紙から本ができるまで展」のテーマは「縄文」。縄文時代を楽しむフリーペーパー「縄文ZINE」とのコラボレーション企画となりました。2021年に八戸市の是川石器時代遺跡が「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一員として世界文化遺産に認定され、「縄文」に注目が集まる中、さらに縄文時代を楽しむための「本」と、縄文時代を感じる「土器づくり」をみんなで体験しようという企画です。展示のタイトルは「紙から本ができるまで／土から土器ができるまで展」。土から土器が作られるように、木から紙は作られ、そして紙から本が作られる。「紙と土」、この二つの原材料から作られる本と土器・土製品をお楽しみください。また、展示に合わせて、書籍「土から土器ができるまで／小さな土製品を作る」も発売されることとなりました。こちららもぜひお手に取ってください。

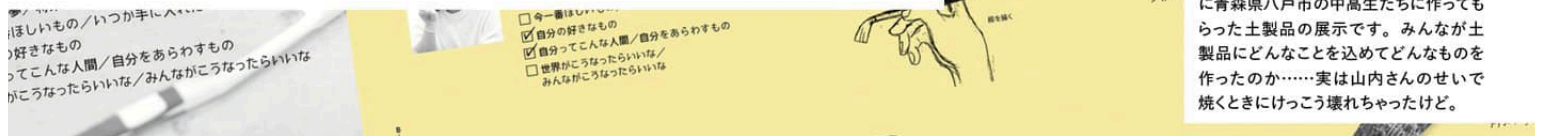
最後に少し大きなことを言えば、土から作られた土器は、縄文時代を生きた人たちの生活の道具として、食と命と祈りを支えていた大切な道具でした。さらにもう少しだけ大きなことを言えば、紙から作られた本は、読んだ人の知識となり、その知識や体験を原材料として人の人格が作られる。この展示と本が誰かの良き原材料となることを祈ります。



土から作られたもの

みんなの小さな土製品

造形家山内崇嗣さん指導のもと、実際に青森県八戸市の中高生たちによって作られた土製品の展示です。みんなが土製品にどんなことを込めてどんなものを作ったのか……実は山内さんのせいで、焼くときにけこう壊れちゃったけど。



**八戸ブックセンター**  
HACHINOHE BOOK CENTER

〒031-0033 青森県八戸市六日町16-2 Garden Terrace 1F  
TEL:0178-20-8368  
開館時間:10:00~20:00(日・祝は10:00~19:00)  
休館日:毎週火曜日  
web https://8book.jp

ア【バス】八戸駅東口から八戸市中心街行き約25分  
【十三日町】または「八戸中心街ターミナル(八日町)」  
ス【鉄道】八戸駅からJR八戸線「本八戸」下車徒歩約10分  
※駐車場はございません。周辺の駐車場をご利用ください。

『土から土器ができるまで / 小さな土製品を作る』  
望月昭秀・著 / 山内崇嗣・土製品  
他。縄文関連の書籍を展示販売します。

トークイベント  
やります。詳細の告知は八戸ブックセンター、縄文ZINEのSNSなどでお知らせします。

紙から作られたもの

**本のまちの BOOK CITY HACHINOHE**

望月昭秀  
株式会社Mochizuki  
Architectural Design  
株式会社「縄文時代専門」事務所代表、縄文時代専門フリーペーパー「縄文ZINE」編集長。著書に『縄文ZINE』(国書刊行会)『縄文』(にっぽん出版)『角川文庫』『縄文』(角川文庫)『縄文』(角川文庫)など。著書に『縄文ZINE』(国書刊行会)『縄文』(にっぽん出版)『角川文庫』『縄文』(角川文庫)など。著書に『縄文ZINE』(国書刊行会)『縄文』(にっぽん出版)『角川文庫』『縄文』(角川文庫)など。

山内崇嗣  
Yamane Takashi  
造形家 / 美術家、石川県生まれ、東京都に在住。1998年武蔵野美術大学油絵学科卒業。国立市消防団団長。経歴あり。2012、2017、2018、2020年 Project N27 山内崇嗣 東京オキナワアートギャラリー、2014年 APLA Project ARH V&J 山内崇嗣 / のみぞ 部屋 / 愛知県美術路。

本展示と書籍「土から土器ができるまで / 小さな土製品を作る」は「縄文ZINE」編集部が中心となって企画制作されています。

三養製紙工場  
操業開始は1977年。震災や経済変動の荒波を乗り越え、国内有数の製紙工場として、また地域を支える地元産業として、半世紀以上つづけてきた。近年は、企業間連携によるバイオマス資源事業への着手や家庭用工場の新設強化を着実に進め、さらなる飛躍を目指している。